

日本洋書協会会報

Vol. 34 No. 3 (通巻394号) 2000年3月

理事会報告

2月25日(金)

1. ㈱ハブネットの正会員入会を承認した。
2. ㈱キャリア・デベロPMENT・インターナショナルの退会申し出を受理した。
3. 以下の委員会報告を了承した。
 - ・ 定時総会準備を開始した。2000年度予算・総務委員会案を次回理事会に提案する。(総務委員会)
 - ・ 協会紹介パンフレット製作準備中である。次回理事会にゲラ刷りを提出する。(広報渉外委員会)
 - ・ TIBF2000洋書バーゲンセール参加募集中、また、「オランダ年」展示品集書手配中である。
(事業委員会)
 - ・ 冊子体名簿への広告を募集する。ホームページがほぼ完成したので次回理事会にて披露する。また総会会場でデモを行いたい。(ダイレクター委員会)
4. 日本複写権センターと米国CCCとの交渉が開始された。
(金原理事)

委員会報告 <事業委員会>

東京国際ブックフェア

今年も4月20日より23日まで東京国際ブックフェアが東京ビッグサイトで開催されます。例年通り事業委員会は洋書バーゲンコーナーを運営いたします。このコーナーに参加する会員を2月25日に募りましたところ、今年

は13社からの参加申込みがありました。3月7日に参加各社にお集まりいただき打合せを行いました。昨年よりも多く50数台のワゴンで販売を行うこととなります。

今年のブックフェアは三つのテーマを掲げています。「子ども読書年」、「オランダパピリオン」、「サンジョルディの日」となっていますが、この内オランダパピリオンについてはオランダ側から当協会に書籍の展示・即売を協力して欲しいとの要請がありました。洋書と共に和書も取扱いますので、日本書籍出版協会と日本取次協会の協力を得て、丸善㈱にこのコーナーの運営を委嘱することになりました。

なお、東京国際ブックフェアの招待入場をご希望の方は協会事務所にご連絡ください。

追記：2000年を「子ども読書年」とすることが昨年8月の衆・参本会議で議決され、今年一年「読書」推進事業が展開されます。この事業に賛同し、当協会は「子ども読書年」推進会議に正会員として参画しています。会員の皆様のご理解とご協力をお願いします。



2000年は、子ども読書年

目次

理事会・委員会報告	1・2	1999年洋書輸入通関統計(前編)	3・4・5	乾坤一擲と漢字の見直し	6・7
海外ニュース・新会員紹介	2	うちの会社	5	広告	8

Web site : 出版社の利用状況

BOOKZONE が出版のプロ546人に対して行った調査によると、全体の79%もの出版社がウェブ・サイトを持ち、そのうち36%が3年以上前にサイトを開設していたことが判った。また、全米の出版社のうち56%がオンラインを利用して出版物を販売もしくは流通しているとのこと。

この調査は8,596人の出版人に依頼し、そのうち546人が回答を寄せている。(回答率=6.4%)回答者のほとんどは小規模出版社で、300社以上(77%)の売上高が200万ドル以下と答えており、売上1,000万以上だったのは27社(6.0%)に過ぎなかった。

回答出版社の76%がサイトを宣伝のためとし、73%が直接販売を行っている。キャンペーン(41%)、オンライン宣伝(23%)、戦略上の協定(22%)などのためにサイトが運営されている。しかしながら、半数以上(60%)がサイトからの収益金額に不満をもっており、半数近く(43%)がサイト訪問者数が月に500人以下だと答えている。

ウェブ・サイトの有効利用としては、出版物の宣伝(52%)、直接販売(45%)、そして国際的な認知度を上げる(31%)などが回答として寄せられた。調査結果のハイライトはBookZone(www.bookzone.com)で見ることができる。調査報告は250ドル、オンラインで注文可能。

PUBLISHERS WEEKLY/JANUARY 3, 2000

新会員を紹介します

会員社名：株式会社 ハブネット

東京都港区赤坂 2-14-5

プラザミカド 1F

Tel : 03-3588-1777 Fax : 03-3588-9250

代表者：代表取締役社長 山本祥子氏

主要事業：海外新聞・雑誌輸入販売、クーリエサービス

入会日：2000年3月1日

会員資格：正会員

よろしくお願ひします。

内田さん三連覇！

第36回麻雀大会 2月25日(金)

去る二月二十五日(金)、36回大会が「東久」(八重洲北口前)で開かれました。聞いてみるとこの雀荘は中山さん(丸善)をはじめ協会の多くの企業戦士達が日頃腕を研いでいる場所であるとの事、今回も東亜ブックさん6名、丸善さん5名と多くの代表を送って、総勢24名の楽しい戦いでした。この大会のメインイベント(?)は何と言っても内田さん(東亜ブック)の大会始まって以来の三連覇になるか又は誰がそれを阻止するかであって、皆さん我こそはと戦いに臨みました。しかしながら終わってみれば初回戦の高得点を手堅く守りきって内田さんが見事三連覇を達成！ 前回大会の表彰式で「二度ある事は三度はないぞ！」とヤジを飛ばしたAさんもションボリと頭を垂れるしかないと言った様子。その強さに「業界から追放しようか」とか「次回からは見るだけにしてほしい」などと非難(?)する声まででる始末。「いろんなご意見もあるようですが、次回も是非参加させて下さい」と細い目を一層細くしてのスピーチに傍らの鶴社長も部下の活躍に目を細め笑顔もこぼれんばかりでした。又初参加の遠竹さん(ユサコ)の準優勝は相当な実力があってのこととお見受けいたしました。

麻雀人口の減少を嘆いていた私も、今回のような大きな会場で多くの人達の活気と熱気を感じる限りまだまだ楽しむ麻雀も決して捨てたものではないとの意を強く致しました。今後もより多くの人たちの参加を得て回を重ねることを願って報告と致します。幹事役の尾崎さん(エイビス)、村山さん(ゲーテ書房)有り難うございました。(友隣社 上原鉄男記)

成績は以下のとおり

優 勝	内田(東亜ブック)	99点
準 優 勝	遠竹(ユサコ)	68点
三 位	葛西(丸善)	53点
ブービー賞	鶴(竜)(東亜ブック)	-58点
技 術 賞	萩原(丸善)	0点
	鶴(三)(東亜ブック)	0点
	中山(丸善)	0点
大 波 賞	唐沢(ゲーテ)/上原(友隣社)	
小 波 賞	村山(ゲーテ)	

1999年（平成11年）1月～12月の洋書輸入統計（前編）

会報委員 荒木 亮一

大蔵省関税局から発表された「1999年（平成11）1月～12月の日本貿易統計」より洋書関係の資料（第49類：印刷した書籍、新聞、絵画その他の印刷物並びに手書き文書、タイプ文書、設計図及び図案）を纏め、若干の分析を試みたのでご報告したい。これらの資料が、新しい方向へ発展する思索のベースとしてお役に立てば大変幸いである。

1. 1999年1月～12月の洋書関係輸入通関統計表

（表1）1999年品目別輸入通関額対照表（単位 百万円）

分類	品目	98.7-12月 輸入価格	99.1-12月 輸入価格	前年比	構成比
書籍 及びそ れに類 するも の	単一シートのもの	122	121	99.18%	0.25%
	辞典及び事典	345	341	98.84%	0.69%
	その他のもの(書籍)	32,603	28,302	86.81%	57.55%
	幼児用絵本	2,183	2,387	109.34%	4.85%
	小計(1)	35,253	31,151	88.36%	63.34%
	楽譜	818	734	89.73%	1.49%
	地図/海図	705	543	77.02%	1.10%
	小計(2)	1,523	1,277	83.85%	2.60%
新聞 ・雑誌 その他 の定期 刊行物	一週に4回以上 発行するもの	109	87	79.82%	0.18%
	雑誌その他の定期刊行物	18,947	17,942	94.70%	36.48%
	小計(3)	19,056	18,029	94.61%	36.66%
合計(1)+(3)		54,309	48,180	90.56%	100.00%
合計(1)+(2)+(3)		55,832	50,457	90.37%	100.00%

注：昨年までの合計には、小計(2)即ち楽譜、地図・海図が含まれていないので、注意されたい。

注1：書籍についての説明

印刷した書籍、小冊子、リーフレットその他これらに類する印刷物（単一シートのものであるかないかを問わない。）

- (1) 単一シートのもの（折り畳んであるかないかを問わない）、その他のもの。
- (2) 辞典および事典（シリーズの形式で発行するものを含む）

(3) その他のもの

（備考：この分類に一般の書籍、即ち学術書、教科書、文学書など、全てが含まれる。書籍の郵便局経由のもの、Air Mail又はSea Mailは、現品入荷月の翌月15日までに通関の届出がされるため、約1ヶ月遅れで計上されている。）

注2：新聞、雑誌についての説明

新聞、雑誌その他の定期刊行物（挿絵を有するか有しないか、又は広告を含んでいるかないかを問わない。）

(4) 一週に4回以上発行するもの（日刊の新聞などが含まれる。）

(5) その他のもの（週刊紙などが含まれる。）

（備考：雑誌は、原産国から航空便または船便で購読者に直送されるものについては、最終号が到着したと認められる時点において通関の届出がされるため、初号入荷時より約1年遅れで計上されるものが多い。但し、航空貨物“Air Cargo/SAL”等で到着するものはその都度通関手続きを経て計上される。）

注3：関税の基準については例年の通り。

イ. 輸入原価は、CIFまたはC&Fである。

ロ. 輸入原価が20万円以下（1社/月）の小額貨物は通関手続き免除のため含まれない。

<分析>：1999年は、為替レートが前年比平均値で10%強の円高の影響が大きかったと思われる。輸入通関絶対額では約10%減少という結果になった。しかし、書籍（書籍「その他のもの」）に焦点を当ててみると、数量ではほぼ横這い（2.7%減少）であることがわかり、円高による変数を考慮に入れ換算すれば、金額でもほぼ横這い（0.02%減少）と言えるのではないかと思う（為替レートの項参照）。更に、米ドル以外の主要国通貨に対しては更に円高が進んだので、金額的には実質増加したのではないだろうか。

一方、雑誌について同様の方法で換算してみると、数量では書籍と足並みをそろえてほぼ横這い状態と言える（0.3%減少）。輸入通関金額を上と同様の方法で換算し

てみると、上昇した（8.7%増加）と考えられる。

洋書のマーケットについての稚拙な机上「景気判断」によると、やはり難しい状況が続くそうである。景気変動の影響がすぐに洋書マーケットにやって来ることは少ないとは言え、期待の實質的景気回復は何時になるのだろうか。因に、経済企画庁の発表した国民所得統計速報による10～12月のGDPは、物価変動の影響を除いた實質で、前期に比べて1.4%、年率換算で5.5%それぞれ減ったと言う。一方で経企庁は、久しぶりの企業設備投資プラス転向をうけて、「景気判断」を上方修正する構えだとのことである。一般的には、景気は回復するか、のアンケートの結果は「No」の比率が上がった、と聞いている。(?)は続く。

2. 最近10年間の推移

(備考：1989年の総輸入額が最近10年のなかで最も平均値に近いので、昨年と同様、指数を1989年を以て“100”とした。)

(表2) 10年間の輸入通関額対照表 (単位 百万円)

歴年	書籍・辞書・絵本			新聞・雑誌			計		
	価額	前年比	指数	価額	前年比	指数	価額	前年比	指数
1990	33,274	122%	122	16,966	120%	120	50,240	122%	122
1991	27,124	82%	100	14,399	85%	102	41,523	83%	101
1992	26,597	98%	98	19,360	134%	137	45,957	111%	111
1993	24,109	91%	89	15,928	82%	113	40,037	87%	97
1994	23,924	99%	88	16,023	101%	114	39,947	100%	97
1995	24,520	102%	90	17,418	109%	124	41,938	105%	102
1996	29,399	120%	108	19,844	114%	141	49,243	117%	119
1997	35,453	121%	130	18,220	92%	129	53,673	109%	130
1998	35,253	99%	130	19,056	105%	135	54,309	101%	132
1999	31,151	88%	115	18,029	95%	128	49,180	91%	119

注：従来通り、地図・海図を含まない数値による。

<分析>：書籍、雑誌ともに、この10年と言う期間内の輸入通関額の絶対値は、指数において概ね上回っているが、洋書の需要は横這い状態であると思う。但し、これは輸入通関額からみた判断であり、次回には「数量」もベースのひとつとして、ここ数年を検証することにしよう。マーケットが変動的になってきたことや、最近の安定物価指数や、洋書・洋雑誌の換算レートなど、その理由は複雑であるが、いろいろな方向から考察してみたい。

3. 主要国別輸入通関統計

(表3) 主要国別輸入額対照表 (単位 百万円)

国名	書籍・幼児用絵本			新聞・雑誌			計		
	価額	前年比	構成比	価額	前年比	構成比	価額	前年比	構成比
米	11,426	88%	37%	6,570	91%	36%	17,996	89%	37%
英	7,020	73%	23%	4,929	100%	27%	11,949	82%	24%
オランダ	1,198	88%	4%	2,642	108%	15%	3,840	101%	8%
独	2,081	95%	7%	1,323	91%	7%	3,404	93%	7%
仏	742	88%	2%	472	111%	3%	1,214	96%	2%
スイス	409	79%	1%	223	87%	1%	632	82%	1%
小計	22,876	83%	73%	16,159	97%	90%	39,035	88%	79%
その他の国	8,275	108%	27%	1,870	81%	10%	10,145	102%	21%
計	31,151	88%	100%	18,029	95%	100%	49,180	91%	100%

注：仏、スイスは各々8位、11位、シンガポールが5位、韓国が9位と伸び、中国が7位を保持、香港が6位、イタリアが10位と落ちる

<分析>：前回に引き続き、主要国として上記の6ヶ国を挙げたが、書籍、雑誌の輸入通関額の合計で、フランス、スイスは主要の地位を明け渡していたが、1999年はそれぞれ8位、11位であった。因に、オランダ、ドイツ、シンガポール、香港、中国、スイス、韓国、イタリアとそれぞれ3位から10位を占めた。

構成比では、アメリカは37%、ドイツは7%を維持、オランダが7%から1ポイント加えて8%へ上昇したが、イギリスは27%から3ポイント減の24%へ下がった。

なお、トップ10の、1999年の書籍（幼児用絵本を含む）と雑誌の輸入通関額の合計は、94.4%であった。（その他の国別輸入通関統計は後編に掲載される。）

4. マイクロフィルムの輸入通関統計

注：「写真用のプレート及びフィルム（露光し、かつ、現像したものに限るものとし、映画用フィルムを除く。）が、オフセット用のもの、マイクロフィルム、その他のもの、に類別されている。

(表4) 1999年までの輸入通関額の推移 (単位 百万円)

品名	1990	1994	1995	1996	1997	1998	1999	前年比	90:99
マイクロフィルム	780	524	527	614	551	528	421	79.73%	54%

<分析>：減少傾向を辿っている。情報量増加に対応する整理と検索の便利さから CD-ROM にその座を明け渡したのも致し方ないであろう。

5. “CD-ROM” の輸入通関統計

注：レーザー読み出しシステム用のディスクで、音声及び映像以外の記録の再生用のもの、及びその他のもの（音声または映像を含む内容で構成されている教育用のものはこの範疇に入る。）

(表5) 1999年までの輸入通関額の推移(単位 百万円)

品名	1996	1997	1998	1999	前年比	96:99
CD-ROM(1)	20,355	31,700	27,565	38,283	138.88	188%
CD-ROM(2)	—	—	—	5,552	—	—

注：(1) は、レーザー読み出しシステム用のディスクで、音声及び画像以上の記録再生用のもの。

(2) は、その他のもの(音声のみの再生用のものを除く。)

<分析>：新しい情報、教育、学習用としての利用度が高く、書籍、雑誌の輸入量の合計に89.1%まで迫った。ジャーナルの電子情報化などで、大学図書館によるオンラインによる情報の共同利用にも役立つようになっていくのだろう。因に、図書館における経費節減政策がここに具現しているのかも知れない。

今回は、統計の内容を税関に確認しつつ、できるかぎり正確な情報を提供できるよう考えた。更にお役に立つ報告にするため、忌憚ないご意見、また、疑問点がある場合、詳細をご希望の向きは、ご遠慮なく事務局へお寄せいただきたい。(後編に続く)

うちの会社

洋販（日本洋書販売配給株式会社）

東京都新宿区大久保3-14-9
Tel : 03-3208-0181 Fax : 03-3208-5308
Web site : www.yohan.co.jp

当社は昭和28年11月、ニューズウィーク、タイムなどの洋雑誌を主体とする洋書卸の事業を開始し、以来47年の間に、ブックス・オン・ジャパン、ペーパーバック、トレード・ブック、美術書、図鑑、絵本、辞書、英語教材、学術雑誌、学術書、電子辞書、CD-ROM、ステーションナリーと取り扱い商品を拡大するとともに、札幌、仙台、横浜、名古屋、大阪、広島、福岡、沖縄の全国主要都市に販売のネットワークを広げ、洋書の普及に努めて参りました。日本のどこでも、和書と同じように洋書が手軽に入手出来るような仕組みを作りたいというのが、創業以来の私たちの夢であり、願いです。

時代とともに、売れ筋も変わり、販売ルートも多様化してきましたが、常に社是の「書籍は我々の生命である」と「東西文化の融合」を私達の使命として念頭に置き、「清潔な仕事場」で「人の和」をはかりなが

ら、仕事に励んでおります。

世界は好むと好まざるとにかかわらず、グローバル化が進展し、今後益々ボーダーレスの社会へと近づいていくでしょう。それは一方的なアメリカ化、欧米化であってはならず、日本からもどんどん情報を発信し、発言をし、「東西文化を融合」していく努力を積み重ねる事が大切だと思います。そのためには、日本人が外国の事をもっと良く知り、世界の人々と友達になり、通訳を通さずに直接対話をしていけるようになる事が必要で、洋書の果たす役割は益々大きいものと信じています。

厳しい時代ですが、業界の皆様と協力しあいながら、洋書の普及と市場の拡大に努力をしていきたいと思っております。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

渡辺正憲

島岡 丘

昨年(2011年)の11月24日付けの産経新聞に日本で勤務している台湾からのビジネスマンの話が「相談室」に掲載されていた。その台湾人の名前は儀坤(ぎこん)というのだが、ご本人が自己紹介をするとき、坤の字は「乾坤一擲」の坤です、と言っても、理解してくれる日本人はこの数年間の滞在中、誰もいなかったそうだ。それに反して、カタカナ語で「バツイチ」、「エンコー」(援助交際)の他にも、「ドタキャン」、「チョベリバ」などをおぼえたそうだ。土壇場でcancelすることをドタキャン、very badをベリバと言ったりするのはおもしろおかしくことばの遊びをするのはよいが、日本語の昔からあった豊かな表現が失われかけるのは心配である。

日本語を書き表すのに、漢字、ひらがな、カタカナ、それにローマ字と4種あるが、それぞれ言語機能別に区別しているわけで、アルファベット26文字だけで表す英語と質的に異なっている。日本語が英語に較べて複雑なので、ローマ字化してしまえ、とか、むしろ英語を国語にしてしまえ、と主張した日本人もいたが、日本語の現状で識字率はほとんど100%であることと、機能別になっており、概念把握が瞬時にできる利点がある。確かに漢字で概念化すると記憶に定着しやすいのではと感じる人は私以外にも多いことと思う。一方、英語の場合は文字の種類が少ないので、1つの音を表すのに文字の組み合わせが複雑である。例えば、「イー」にあたる音を表すのに12通りの綴り字がある。

be, he, me, ...
compete, extreme, pete, ...
machine, magazine, marine, ...
beat, neat, treat, ...
green, feet, keep, ...
conceive, deceive, perceive, ...

その他、believe, amoeba, Caesar, key, people, quayもある。さらに、同一の綴り字で5通りも発音の仕方が異なる(through, though, tough, plough, thorough)場合もある。英語の学習者泣かせであるが、それを解決するのは、前号にも触れたように、発音記号とそれをサポートするカナ表記ではないかと思っている。発音記号

の活用は世界で日本が最も早く取り入れまたその活用が最も幅広く行われているのだが、日本には聴覚よりも視覚を重んじる傾向が伝統的に強く、「文字さえ違えばそれでよい」という心的状態があるようだ。

しかし、われわれの社会生活のかかなりの部分は音声伝達である。国際舞台で活躍するある日本人から聞いたのであるが、economic planningのpl-の発音が出来なくて、いつでも不快感を抱かれたそうだ。pl-が出来ないのはその発音が教えられなかったからで、日本の伝統的な視覚依存文化を英語学習にも取り入れたに過ぎない。

日本語に漢字を取り入れ、カタカナ、ひらがなを発明したのは日本文化の誇りとしてよいことであるが、英語には英語特有の言葉上の約束があることを感じ取らねばならないようだ。英語のアルファベット文字を見て声を出して読むとき、とかくわれわれは左から右に順々に読んでしまい、それが正常だと思って疑わない。日本と英国と世界地図に位置づけてみると、両国とも、ユーラシア大陸極東極西列島文化である。ユーラシア大陸の文化をそれぞれ受け継ぎそれぞれの列島で熟成したという考えると面白さが出てくるようだ。

pl-の話しに戻るが、まずlの構え(舌先を歯茎につける)をしてから、pの音を出せばl音が自然に無声化し英語らしく発音できる。私が最初にlとrの区別が絶対に必要だと思ったのはイギリスのローマン主義時代の詩人William WordsworthのDaffodils(水仙)という詩である。

I wandered lonely as a cloud
That floats on high o'er vales and hills,
When all at once I saw a crowd
Of golden daffodils..

1行目のcloud(雲)と3行目のcrowd(群生)とは韻を踏んでも同音ではいけない。cl-は奥舌が軟口蓋に接触する[k]と舌先が歯茎に付く[l]とが同時あるいは[l]が[k]の舌の動きより一歩先になるとよい。

1 昨年NHKの番組で、川柳で、

「日本語からだれでも出せる英語音」

と詠んだが、これは舌などの動きをコントロール出来るというのが前提になっている。

4年前に「英語発音・表記学会」を茨城キリスト教大学に本部を置いて、年次大会のほか、月例英語発音指導

講座を続けているが（於：小学館プロダクション）、そちらの会に出席してくれている乾隆氏（東京家政大学）が漢字も英語の発音習得に役立つことを私の還暦論文集（開隆堂発行）に寄稿してくれた。その一部を以上に紹介したい。

call small candle welcome milk はそれぞれ、「降雨」「相撲」「剣道」「上を噛む」「身浮く、目浮く、妙く」と表す。

going morning talking about はそれぞれ、「強引」「もう寝ん」「盗金奪う」と表す。

one woman をそれぞれ、「右腕」「魚万」、young yen を「嫌ん」「胃炎」、rare ray ride write をそれぞれ、「売れや」「愁い、憂い」「裏井戸」「裏糸」とする。

water get it cut off はそれぞれ、「藁」「下痢ッ」「過労父」と表す。また、I get off. Here it is. Take it easy. What are you going to? はそれぞれ、「揚げ豆腐」「部屋入りず、ヘア入り図」「手切り意地」「薬湯がな」と表す。

center counter hunting はそれぞれ、「背な」「買うな」「犯人」「愛畏」と表す。

弱形語ではh音が脱落することから、in her car in his car I saw him. Come here. He made her marry. はそれぞれ、「田舎」「稲塚」「愛想忌む」「亀や」「悲鳴黙り」のように表す。

a cup of~ a kind of~ a sheet of~ a lot of~ a lot of men はそれぞれ、「あ河童」「赤いんだ」「明日」「新た」「改めん」のように表す。

an egg take in come in come on watch out for ever rob a man Could I~? as soon as はそれぞれ、「姐語」「低金」「仮眠、仮面、区民、湖面」「家紋、苦悶」「割っちゃうと」「掘れば」「驟馬マン」「句題」「明日名付け」のように表す。

We don't come here. Does she take it? have to has to at home はそれぞれ、「うどん噛めや」「出て行けッ」「波蓋」「蓮田」「阿呆夢」のように表す。

this year miss you ice show nice shot はそれぞれ、「実写」「密集」「愛称」「内緒ッ」と表す。

Could you~ Did you~ Aren't you~ はそれぞれ、「苦汁、苦波」「侍従」「暗中」のように表す。

I want you. I hit you. I hate you. はそれぞれ、

「愛腕中」「愛必中」「相擲中」のように表す。

take it make it knit shirt call back はそれぞれ「定期ッ」「名機ッ」「日射」「工場」のように表す。

Mind the gap. Watch your step. はそれぞれ、「満員だギャッ!」「割っちゃ捨て!」のように示す。

midnight dustpan dustbin softball soft touch big car big gate get back はそれぞれ、「見ないと」「出すパン」「出すピン」「祖父母ろ」「祖父タッチ」「美化」「美芸」「下馬ッ」のように表すことができる。また、~don't know は「~殿、土囊」のように表す。

soft center her red ring must show はそれぞれ、「祖父背中（せな）」「晴れ鈴」「抹消」のように表す。I must show~ He crashed her costly car. はそれぞれ、「会いましょう」「日暮らした擦りカー」と表す。

I'm a swimmer. I have~ I'll write you. You'll say that. How have you been? はそれぞれ、「合間睡魔」「愛撫」「愛裏意中」「許せだ」「這うぶよ敏」のように表す。

日本では発音記号の長年の伝統があり、それにさらにカナ表記が加わり、その上漢字表記も時折り活用すれば、発音への興味関心が高まるであろう。そして、カナと漢字の表記をIPA (International Phonetic Alphabet, 国際音標文字) にちなんで、KIPA と言うのがよいであろう。

人間は動物と違って文字を抽象化して考えることができる。つまり、ことばを用いてことばを語るできるのである。漢字は一つ一つに意味があり、「河童亭」や「若干便利」はそれぞれ、cup of tea と Jack and Betty に近い近似漢字表記であるが、近似カナ表記よりも面白みがあるようだ。

ロンドンの 河童亭で お茶一杯

などのように、川柳の5-7-5 でさまざまなことを口調よく詠くめる。英語の発音についても百種程で十分その特徴を掴むことができる。

(茨城キリスト教大学教授)

CDI

Career Development International Inc.
Globalmedia Gp.
Sony Group

2000年3月吉日

お客さま 各位



東京都港区三田3-13-16 三田43森ビル7F
TEL(03)5445-2959 FAX(03)5445-2937
(株)キャリア・デベロプメント・インタナショナル(CDI)
グローバルメディア・グループ

部門長： 江口 隆三

署名： 江口 隆三

映像ビジネスの撤収について

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のご高配を賜り厚く御礼を申し上げます。

さて、この度2000年3月31日をもちまして現業の映像事業からビジネス撤収をいたすことになりました。

これは、ソニー・グループの戦略的な事業の再編成のなかで、グローバルメディアグループの映像・出版ビジネスから撤退を致すことを決定したからであります。

つきましては、このような事情をご賢察の上、何卒、撤収の決定をご了解くださいますようお願い申し上げます。

なお、今後のビデオ配給につきましては、別途にご案内申し上げます。

1985年以来、15年の永きにわたりお引立を頂戴いたし、誠に有難く心より御礼を申し上げます。

敬具

株式会社キャリアデベロプメント・インタナショナル 〒108-0073 東京都港区三田3-13-16 三田43森ビル7F Tel. 03-5445-2959
グローバルメディア・グループ Fax 03-5445-2937

2000年3月 通巻第394号 日本洋書協会 編集者 高橋 紘

☎103-0027 東京都中央区日本橋1-21-4 千代田会館5階20号室 ☎(03)3271-6901 FAX.(03)3271-6920

印刷所=藤本総合印刷株式会社